

平成28年度学校教育自己診断結果分析

今年度の学校教育自己診断については、回答数が生徒10%、保護者20%の回収率が向上した。さらなる向上をめざしたい。

分析および考察

(生徒)

- ・全体を通してほぼ昨年と同様の肯定的な意見がでた。
- ・5%以上の変化があった項目

「ICT活用」が6.7%増加した。校内のICT設備の充実（全クラスホワイトボードに変更済）とともに教員への研修や活用研究の推進を図った結果である。

「家庭学習の機会」が5.1%増加したが、さらなる向上をめざす。また、予習・復習や学習習慣を身につけるよう授業力向上の一環として推進した。

「学校行事への工夫」については5.1%減となった。学校敷地内が建替え工事のためグラウンドが狭く、校舎の使用も制限が多いため生徒からの要望が実現しにくいためと考えられる。

(保護者)

- ・「学校生活への安心」は5.7%減少した。
- ・「情報発信」は7.0%減少した。

保護者からは全体として昨年より若干低めの評価であった。

これは昨年より20%回収率が向上したことにより、学校に関心を持っている保護者が増えたとともに、そのかたがたからの期待を実現できていない部分があると考えられる。

保護者全体へ情報発信するとともに家庭との連携を密にし、生徒に対する要望・悩みなど細やかな対応ができる組織作りを進める必要がある。

学校へ期待することの上位は「進路指導」「学習指導」「対人関係」「生活指導」であった。これらの期待に応えるよう努力する。

(教員)

教職員からは、「学校行事の工夫」について9.5%肯定的な意見がでた。グラウンドの工事など制約が多い中で生徒のために工夫・改善のための意見交換がされている一方で、「日常的な意見交換を行う機会がない」など会議も含め多忙な中、日常業務をこなしている様子が伺われた。情報の共有など効率よく業務ができる組織作りを検討していく。